



CANOVA

だより67 January 2021

Associação Crianças de LUZ

文・写真_鈴木真由美 編集_星久美子・真野由紀 発行_光の子どもの会
Praia do Estevão s/n, Canoa Quebrada, Aracati-CE-Brasil CEP:62800-000
連絡先: info@criancasdeluz.org

2020年は私たちにとって、とても難しい局面に立たされる困難な1年となりました。それと同時に、私たちが今まで後回しにしていたことが必要となり、変化が生まれました。たとえば、テレワーク。会社などに出勤することなく、自宅で仕事をする。私がブラジルにいるときは、自宅が事務所を兼ねていることもあり、日本とのやり取りは当然ながら全てテレワークで行っていました。それが日本にいる間も、当然のように行われることになるとは思ってもみませんでした。そのおかげで、日本にいても夜に会議が入り、夜中に報告会や講演をする…ということも増え、以前よりも忙しくなりました。そんな気がしています。

こうした流れの中で1つとても良かったのは、地球の裏側にいる人との会話が近くなったということ。ブラジル国内であっても、なかなか会うことのできなかった人たちが、インターネットを通じて簡単に会えるようになった。それは、私たちにとっても大きな財産となりました。カノア保育園の先生たち中には、なかなか研修に参加できないという課題があったのですが、カノアから遠く離れたサンパウロなどで開催されている研修にオンラインで参加できるようになったため、以前よりも学ぶ時間が増えたと喜んでいました。また、サンパウロにいるエヴァさん（カノア保育園を立ち上げた一人）やフラビアーニさん（カノア出身で元カノア保育園の先生で現在サンパウロ在住）と集い、話し合いを行うことができるようになったことで、疑問や質問をしやすくなりました。お蔭で子どもや保護者への対応がしやすくなったとの報告もありました。

先日モンチ・アズールの創設者であるウテ・クレーマーさんがおっしゃっていました。

「コロナ以前に戻ることはない。これからどう生きていくのか。それを考えていかなければいけない」

私たちはどうしても、以前のように戻ったら何をしようかと考えてしまいがちですが、そうではない。新しい生活様式の中でどのように取り組んでいくかを考えていかなければならないのです。

カノア保育園及び学童教室は、2021年もオンラインによる授業からのスタートとなります。今後どのように変わっていくか分かりませんが、インターネット環境の整備やシステムの構築などが必要となってきます。会員の皆様から頂く会費や寄付。そして支援してくださっている方たちからのお金はすべて、現地の活動に役立てさせていただいています。引き続きご支援・ご協力のほど、よろしくお願いいたします。



「光の子どもたちの会」の卒業生

翻訳: 鈴木真由美



Ezequiel Lima(エゼキエル)

しばらく、長い旅に出ている感じがしていました。
赤みがかったオレンジ色の崖をお城に向かって。

学校に行きたくないと思ったことは、一度もありませんでした。学校はたくさんの物で溢れており、そこには私の夢が詰まっていた。なぜならそれが、私をととても幸せな気持ちにさせてくれていたからです。

リサイクルペーパーに描かれたカラフルな絵。布の人形に、ブランコ。パソコンに見立てたものを受付において、休み時間に遊んでいた風景。そこは、自分の想像力をつかって遊びを作り、花を咲かせていた場所。

そこは家庭とは正反対の場所でした。大人が抱えている不安と苦悩にあふれ、貧しい中で子どもを育てなければいけない、その雰囲気を感じていた場所。隣の家に住む子どもと遊ぶことさえも許されなかった私が、保育園や学校の中だけは、友だちと一緒にいることができたのです。

どこにでもいるひとりの子どもとして才能を伸ばし、先生からの愛情を受け、自分たちで自由に遊びを作り出すことができた、そんな場所。ある時は、私がみんなと一緒に活動に参加できるようにと、自宅にまで足を運んで母親を説得してくれた先生たち。エヴァ先生とマユミ先生は私の人生の中に安全地帯として存在していました。なぜなら、その場所こそ、私が自分として存在することが許されていた唯一の場所だったからです。

砂丘や森を探検し、自然と共に生きる大切さを学びました。そこで拾ってきた材料でおもちゃと一緒に作り、劇のシナリオを考え、ダンス・デ・ココを踊り……私の大好きなマユミ先生の日本人の友だちと一緒に遊んだ遊び。日本人ボランティアたちは日本祭を開催し、私たちを楽しませてくれました。まだ子どもだった私が受け取ったもの。たくさんの人たち、新しい場所、新しいお話に囲まれ育まれながら生まれた、私の人生の生きる目的。

この場所は、魔法のようなところ。真剣に向き合う気持ちと勇気を育て、地域と共に生きている場所。光の子どもたちの会。幼少期にこの場所で過ごすことができたことに感謝しています。なぜなら、ここから子どもたちの物語が始まり、チャンスをつかむことができるのだから。幼少期の夢を追いかけ、青年となった私のように。

今日にいたるまで、この気持ちを持ち続けられていること。そして、人生の夢に向けた第一歩を、大学生となった私が踏み出していること。今、私は、社会文化を学びながら、自分の体の一部でもある、その歴史と多様性のある黒人文化と向き合っています。

今、Ezequiel（エゼキエル）という少年はZ（ゼ）と呼ばれ、カノア保育園と学童教室の窓から海を眺めていた自分を忘れずに、私の人生を歩んでいます。

光の子どもたちの会やエステーヴァン村を通じて出会ったボランティアの人たち、私の幼少期を支えてくれた先生や同級生たちに心からお礼を言いたいと思います。カノア保育園と学童教室こそ、私が夢をもち、遊び、受け止め、愛された場所だったのだから。

カノア保育園に通っていた頃(右)



本が出版されました！！ 「天使が舞い降りる村のカノア保育園 鈴木真由美著」

2020年8月に「天使が舞い降りる村のカノア保育園」が出版されました！ JICA地球ひろばやJICA横浜、公立の図書館でも閲覧ができるようになっていきます。また、コラムの連載をさせていただいているwebメディア「ほいくis」で紹介していただきました。さらに、様々な会報誌などにも書籍紹介をしていただきました！

2020年秋号：『ラテンアメリカ時報』(No.1432)

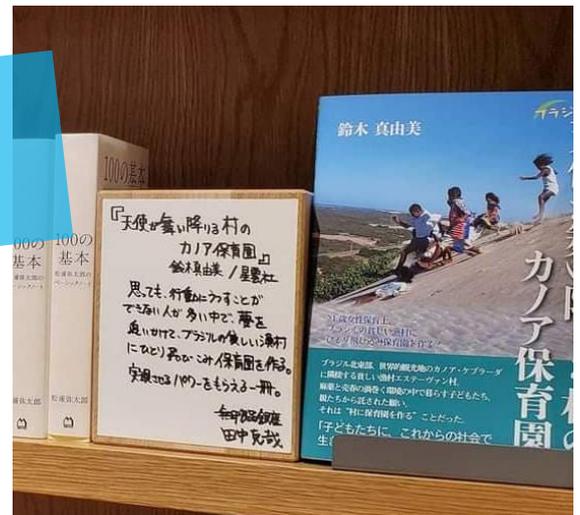
2020年11月号：ブラジル特報(日本ブラジル中央協会)

2020年11月号：エデュカーレ(100号、臨床育児研究会)

出版にあたり、これまでの活動をお話することが多くありました。当時の情景をよく思い浮かべるので、今までの20年を振り返る機会になりました。

また、先日、ブラジルの学会誌にカノア保育園について掲載されました。それを受けて行われた報告会では、エヴァさんをはじめ、現地の先生として働いた人々からの想い、卒園生たちの今とその時に感じたことなどを直接聞く機会となり、心温まるひと時でした。

無印良品銀座店では
社員のおすすめ本として
紹介していただきました！！



読んだ方からの感想の一部を紹介

「子どもたちに、これからの社会で生きていく力をつける」という思いは、教師をしている私も同じ思っています。世界どこにいても自分の道を自ら切り開いていく力が必要になると思います。私も一教員として、また社会人として、これからは親として、自分の生き方をまずは示せるようにしたいです。(20代、女性)

「こういう若い人がいてくれるなら、日本の未来にまだ希望をもっていいかも」と思わせてくれるような1冊。(50代、男性)

最高でした！すべてのページに鳥肌がたつけど、特にビビアーニのページ。泣きました。何回見ても泣きます。学ぶことの大切さをさらに実感。(30代、女性)

号泣。多分、反対側のバリバリ日本式の子育てだけど、我が家なりに楽しくやっついこうと思う。素敵な本をありがとう。(40代、女性)

ゆうちょ財団:

学童教室実施から学ぶ、公立小学校におけるライフスキル授業実施事業

2013年から2018年までJICA草の根技術協力事業として、地域子育て支援ネットワーク創設と、ライフスキルトレーニングの実施を行いました。2019年に行った調査では、アラカチ市公立13校全てにおいて、月1回の定期的なライフスキル授業が実現されていました。しかし残念ながら、その授業内容や質に学校格差が見受けられるようになっていました。2020年2月には、秦野市教育委員会の方々と共に、現地を視察し、日本の学びをブラジルに活かす方法の一つとして、ライフスキルトレーニングをアラカチ市内の全校に対して実施できないかと思案中です。

ゆうちょ財団による今回の事業では、指導教員に対する養成講座を実施し、授業内容や質の担保を図るとともに、授業研修が実現されることで、教員同士の相互理解及び学びの体制を整えることを目指していきます。

2020年4月から開始された本事業ですが、新型コロナウイルスの影響で、日本人スタッフ及び専門家の派遣を断念せざるを得ず、ゆうちょ財団より、必要に応じて、1年間の事業継続が認められたため、本事業は、2021年12月31日まで実施することになりました。

2020年4月からオンラインによる研修に向けた協議を進め、8月以降、既にライフスキル授業を実施している13校に対し、オンラインでの研修や各学校との報告会が行われました。しかし、本来実施しようとしていた研修という形式はほとんど行えず、オンライン授業として各校がどのような授業を実施しているのか。今の課題は何なのか。どんな問題が持ち上がっているのかなど、どちらかという研修自体が相談会のようになっていました。

2021年もオンライン授業が継続される見通しのアラカチ市。本事業もオンライン研修として実施していく予定です。授業研修については、オンラインでは難しいので、どのように実施できるか検討を重ねているところです。新しい生活様式の中、どのような研修を実施することができるのか。皆様からぜひ、ご意見をお聞かせください。



子育て日記より

本を出版したことで、今までの自分の子育てについても振り返る機会となった私。その中でも一番の発見はやはり、娘たちのたくましさでした。それを育むことができたのは、周囲の方たちに恵まれ、自分らしさを失わずに生きてこられたことが一番大きかったのではないかと痛感しています。

「で、お前は何人（なにじん）なんだよ！！」

と小学生の時に言われた娘が、

「私は美莉亜だけど、何か？」

と返したこと。

それを聞いたみんなが、そうだよな。と納得し、日本人でもあり、ブラジル人でもある娘に対して、憧れのまなざしを向けた…という娘の同級生たちからの話を聞いた時には、良かったと思うと同時に、そんな風を感じてくれる人たちに囲まれて幸せだなあ～ということでした。

だからこそ、どんな場所にいても、どんな人と一緒にいても、だれもが自分らしく生きることのできる社会とってっていくことを、願わずにいられない私なのでした。

● 「天使が舞い降りる村のカノア保育園」 出版記念オンライントークイベント



動画/YouTube

2020.9. 5トークイベントvol.1

<https://youtu.be/hjrRRWM9dzY>

2020.10.24トークイベントvol.2

<https://youtu.be/Qnvxfel9GKo>

2020年9月5日に私たちとしては初めての、「オンライントークイベント」を実施しました。いつもお世話になっている、西荻窪にあるブラジリアンバー「Aparecida」が主催となり、実施した今回のイベント。

本の編集者との対談形式で行われた第1回には、長く私たちの活動を応援してくださった方で、九州など遠方に住んでいるためになかなか報告会に参加できない…という人たちにも参加していただき、とても嬉しかったです。15年以上ぶりに直接やり取りさせていただいた方もいて、コロナ禍におけるオンラインイベントの良さを感じることができました。

そして10月24日に実施した第2回目は、エヴァさんやブラジルのスタッフともつなぎ、現地の風を少しでも感じていただくことを目的としました。観光地カノア・ケブラーダのバス停からカノア保育園までの道のりを動画で流したりと、文章や写真だけでは伝わらなかったことも感じていただけたのではないかと思います。ブラジルのスタッフにとっても、久しぶりにエヴァさんと話すことのできる機会となり、今までの感謝を伝えるなど、素敵な場面を見ることができました。

第1回目の収益：子どもの日のプレゼントとして衛生用品を中心に購入。ニリアーニとブルーナに対する学資支援に。

第2回目の収益：クリスマスプレゼントとして、絵の具や画用紙、粘土などを購入。ニリアーニとブルーナに対する学資支援に。

イベントに参加いただきました皆様にはこの場を借りて、心から感謝いたします。ありがとうございました。また、イベントに参加できなかった皆様には、現在無料で動画が公開されていますので、ぜひご覧いただければと思います。

● 「SDGsよこはまCITY ぽこあぽこ2020」に参加

今年は新型コロナウイルスの影響で、日本国内における活動を実施することができませんでした。特に、皆様に好評をいただいているブラジル料理教室…。年3~4回実施していたのですが、今年は一度も実施できませんでした。そんなとき、横浜で毎年行われている国際フェスタの代わりとなるオンラインのイベントの中で、ブラジル料理教室を実施してもらえないかという話をいただきました。初めてのオンラインでの料理教室。それでも、平塚えれな先生をはじめ、藤本くみさんや谷村祥子さんというスタッフと共に、動画を撮影し、編集。当日に配信してもらうことができました。

2020年12月12日に行われた「SDGsよこはまCITY ぽこあぽこ2020」。団体紹介のVTRの後に、ブラジル料理教室を配信しました。企画してくれたイベントのスタッフの方からは、

「私自身も光の子どもたちの会さんの企画を楽しませていただきました。動画のクオリティが高く、今まさに鈴木様のお話を聞いている…というような臨場感も感じましたし、お料理の動画ではBGMやコメントが入っていて、とても分かりやすく、テレビの料理番組を見ているようで最後まで興味深く拝見させていただきました。他のスタッフもとても驚いていました。」

とのコメントをいただきました。

主催団体からは「当日の配信内容について録画させていただいております。今後動画コンテンツを作り、HP上でライブラリーとして公開し、たくさんの方に見ていただきたいと思っています。」

とのことです。公開されましたらまた皆様に共有させていただき、ぜひ見ていただけると嬉しいです。

ありがとうございます＊Obrigado

2020年6月6日～2020年12月7日現在までに会費及び寄付を頂きました皆さま及び物資支援を頂きました皆さまのお名前を下記に記載いたしました。この場をお借りして、心より御礼申し上げます。本当にありがとうございます。

新型コロナウイルスの影響で保育園及び学童教室が休校となる中、現地では個別相談や動画の配信など、「#今できること」に取り組んできました。今までとは異なる形での支援が必要となってきます。引き続きご支援ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

目標会員100名！！

会費及び寄付を頂きました皆様(順不同)

石田泰三さま、大谷タカコさま、岡本ゆり子さま、加藤恵美子さま、川野安子さま、川原翼さま、桐生正弘さま、桑山寛子さま、定形澄江さま、谷村祥子さま、カ石マルシアさま、藤崎さよりさま、藤本夏実さま、森武さま、山下万喜子さま、吉野八重さま、たかはしべん音楽事務所さま、NPO法人MAIKENさま



「光の子どもたちの会」の活動は
皆さまの会費とご寄付で
成り立っております。

村で唯一の保育園であり、
保護者からは月謝をとらない代わりに
保育園での消耗品(石鹸や文具、食材など)を
持ってこられる範囲でお願いしています。

会員になって、活動を
サポートしていただけますか？
目指せ会員100人！

年会費(5,000円)・ご寄付のお振込み方法

1. 自動引き落とし

お持ちの口座の金融機関で手続きができます。引き落とし日、金額をご指定いただけます。尚、ゆうちょ銀行からお振込の場合は以下の【2. 郵便振替】と同じ口座番号ですが、他金機関からの振込の場合には、【3. ゆうちょ銀行振込】の口座番号となりますのでご確認ください。

2. 郵便振替

口座番号 00280-1-41787

加入者 光の子どもたち・カノアの活動を支える会

3. ゆうちょ銀行振込

名義 光の子どもたちの会 店名 ○二八(ゼロミハチ)

店番号 928 普通 口座番号 5552598

くわしくは、HPを
ご覧ください！



http://criancasdeluz.org/initial/index_jp.html

問い合わせ先:代表 鈴木真由美 日本事務局長 堀池真輔
〒221-0841 神奈川県横浜市神奈川区松本町1-7-1
☎045-321-1824 info@criancasdeluz.org

コロナ禍におけるエステーヴァン村の現状

2020年3月からロックダウンが始まったカノア保育園のあるセアラ州アラカチ市。5月には観光地カノア・ケブラダ地区として、観光客を地元に入れまいと、地元住民がバリケードを築きました。それほど、セアラ州はブラジル国内においても新型コロナウイルスの陽性率が高かったのです。また、アラカチ市には人工呼吸器が市立病院に1つしかなく、重症者が出るとすぐに、州都のフォルタレーザに搬送されていました。しかしフォルタレーザ市内の病院がひっ迫し、これ以上市外の患者を受け入れられないということになった時、地元住民は外部の人たちの侵入を抑えようと決めたのです。

それから9月の第1週まで、ロックダウンはつづきました。観光地カノアではレストラン、ホテル、海の家、土産物屋など、日用品を購入するスーパーなど以外はすべて閉鎖され、多くの失業者が出ました。エステーヴァン村の7割以上は観光業に従事しているため、働き口がなくなってしまいました。ブラジル政府は各世帯に月に600レアルの支給を実施しましたが、受給資格のない家庭も多くあり、経済的に難しい状況となっていました。それでも、エステーヴァン村の人たちに話を聞くと、

「お金はないけど、食べ物には困らない。森や海に行けば木の実に魚があるからね」

「家族とゆっくり過ごす時間ができてうれしいよ」

と、なんとも楽観的な答えが返ってきました。その一方、私たちが創設した「地域子育て支援ネットワーク」のメンバーからは、家庭内暴力や虐待など、かなり厳しい状況であるとの報告がありました。ロックダウンの中、専門機関や専門家が自由に動くことができなくなっており、増え続ける相談件数に対応するのが難しくなっていました。

9月7日の独立記念日の前後に、ようやく解除されたロックダウン。ブラジル国外からの観光客はいませんが、国内からの観光客が平日にもかかわらず押し寄せてきました。11月に入り、陽性者数が増加傾向になると、またロックダウンになるかもしれないという噂がたちましたが、時短営業の要請のみとなり、ロックダウンには至りませんでした。

クリスマスに年末。ブラジルの人たちにとっても家族で集まる大切な日。今年はいつもとは異なる、新しい生活様式の中で、それぞれがそれぞれに思いを馳せ、新しい年を迎えるのでしょう。

2020年。学校は再開されることなく、オンライン授業のみで終了しました。2021年も、再開のめどは立っておらず、新学期はオンラインにて実施されることが決定しています。カノア保育園も例外ではありません。幼児教育において、オンラインで授業を行うということは難題であり、その成果には疑問を持たざるを得ませんでした。少しでもこの新しい生活様式の中で、子どもたちが楽しく、幸せに過ごすことができるよう、できる限りのサポートをしていきたいと考えています。

